

予備自衛官補生のA課程を終えて 神奈川地本カレッジ防衛モニター 植田 尚

11月19日から23日の5日間、神奈川県横須賀市にある武山駐屯地で予備自衛官補のA課程を行った。予備自衛官補は、一般と技能の二種類があり、私は一般で5日間の訓練を10課程、計50日間の訓練を行うことで予備自衛官になることが出来る。A課程は予備自衛官補課程の初日の人が対象なので、自衛隊から送られてきた資料とインターネットに掲載されている情報を元に持ち物などの準備を行い、訓練当日に臨んだ。

訓練初日に行ったことは、自分のサイズにあった迷彩服等を受領し、自分の名前などを縫いつける作業や半長靴を磨くなど、私が考えていた「自衛隊らしい訓練初日」の一日だった。

二日目以降は、入隊式を行った後に、自衛官としての心得などを学ぶ座学と敬礼や整列といった自衛官としての基本的な動作を学ぶ基本教練。A課程は、銃器を使った訓練をまったく行わないのかと思っていたが、銃を用いた訓練もあり、銃授与式とその基本教練も行った。

5日間を通して意外だった点として、自衛隊のイメージによくある「罰則としての腕立て」はほとんどなかった。また、自衛官は体を動かす職業なので食事は大盛りなのかと思っていたが、普通の学生食堂のランチ等とそんなに変わらない量だった点も意外。しかし、似たような量でも、自衛官は時間を大事にするため普通の人の半分程の時間で食べなければならず、量ではなくスピードという点で、食べることも訓練の一環なのだと感じた。今回はまだ最初の訓練で、自衛隊という組織の考え方や在り方を知るにはとても良い機会であり、今後の9課程、45日間も頑張る訓練に励みたいと思った。



イージス艦体験航海 カレッジ防衛モニター 関 宏康

今年最後のカレッジ防衛モニターの活動は、護衛艦「きりしま」の大変貴重な体験航海だった。停泊していた横須賀基地から間近で見ると、約160メートルの全長を持つ「きりしま」は、護衛艦独特の迫力を持ち、精悍なフォルムの中に美しさを兼ね備えた姿であった。

航海中は船体の大きさのおかげか揺れを感じることも少なく、短い時間ではあったが、とても楽しい船旅であった。また、艦内を紹介してくれる海上自衛官大村士長の説明を聞きながら普段は絶対に見ることのできない内部の見学に感動した。戦闘に関わる部屋の他にも医療室から散髪室などが揃っており、普通の町にあるような施設が船の中に集約されていることを知った。

艦内神社や酒保と呼ばれる旧帝国海軍時代の軍艦にあった施設の名残となっている場所の見学、大村士長による艦名や制服などの説明を聞き、海上自衛隊という組織が帝国海軍の直系として現存していることを強く感じられた。

艦艇勤務の方のお話を聞いたことは本当に大変良い機会で、艦艇勤務の楽しいことや辛いこと、航海中の楽しみについてインターネットなどでは知り得ないお話に驚くばかりであった。

実際に護衛艦に乗り、乗員の方のお話を聞いたことは、とても有益で、海上自衛隊という組織の実際の様子を知る良い機会となった。

